

会 社 概 要

- <社名> 株式会社シーエムディーリサーチ
- <資本金> 平成 12 年 1 月 (設立時) 3,000 万円 (発行済株式 600 株)
平成 13 年 4 月 (増資後) 6,000 万円 (発行済株式 720 株)
平成 13 年 9 月 (増資後) 1 億 1,500 万円 (発行済株式 940 株)
平成 14 年 9 月 (増資後) 1 億 6,675 万円 (発行済株式 1,147 株)
- <設立> 平成 12 年 1 月 21 日
- <本社> 東京都港区西新橋 2-19-4 西新橋 K-1 ビル 6 階
- <研究・開発> 慶應義塾大学棚橋隆彦研究室内
- <主要株主> 役職員 (74%) オリックス・キャピタル株式会社 (26%)
- <役員> 代表取締役社長 武重公昭
1944 年生まれ 58 歳
一橋大学 商学部卒業
安田信託銀行投資顧問企画部長、安田信証券常務取締役を歴任
01 年 10 月 当社代表取締役社長 就任
- 代表取締役副社長 尹 熙元 (慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了
工学博士 元ソロモンブラザーズアジア証券)
1964 年生まれ 38 歳
ソロモンブラザーズで 11 年日本株のトレーディング業務に従事
00 年 1 月 株式会社 CMD リサーチ社を設立
- 代表取締役副社長 東郷孝士
1963 年生まれ 39 歳
一橋大学 経済学部卒業
安田信託銀行、富士投信投資顧問などで、外国株式の運用に従事
00 年 1 月 株式会社 CMD リサーチ社を設立
- 取締役 棚橋隆彦 (慶應義塾大学理工学部教授)
1941 年生まれ 61 歳
慶應義塾大学大学院 理工学研究科 博士課程修了

69年 工学博士
70年 カリフォルニア工科大学 客員教授
85年 慶應義塾大学 理工学部 教授
86年 サザンプトン大学 客員教授
87年 マサチューセッツ工科大学 客員教授
01年3月 当社取締役就任

取締役 小林雅裕 (有限会社 FP 情報センター代表取締役)
1958年生 45歳
佐賀大学 経済学部卒業
野村証券を経て、
92年 有限会社 FP 情報センター設立
00年 株式会社 CMD リサーチ設立 取締役就任

取締役 櫻井英哉 (オリックス・キャピタル株式会社)

監査役 鳥海輝信
1943年生まれ 59歳
東京大学 教養学部卒業
富士銀行取締役、富士投信投資顧問副社長を歴任
01年 当社監査役就任

< 事業内容 > 金融工学の研究・開発

< 経営理念 > 金融工学と最先端工学の融合を図り、従来にない最先端金融テクノロジーを開発し、日本を発信源とする新金融工学の確立を目指す。

当社の最大の目的は、21世紀型の新しい金融工学を確立することである。従来の金融工学は、統計的な手法によるものが主流であり、「傾向値」の分析といっても過言ではなかった。当社では自然科学の分析手法を充分に取り入れ、動学的に金融分析を行う。そして金融分析を、社会科学に近い分野から真に自然科学の一分野と呼べるものに昇華させる。

当社社名の CMD は、Computational Market Dynamics (計算市場動力学) の頭文字である。当社はこの「計算市場動力学」を新しい学問分野、新しい金融工学として提唱する。CMD は、Computational Fluid Dynamics (数値流体力学) から派生・転成したものである。CMD は、金融市場を分析対象とした「新しい学問分野・新しい学問体系」そのものであり、従来の金融工学とは一線を画している。CMD という学問体系では、金融市場を流体と捉え、自然科学の分析手法によってこれを解析する。当社は、CMD という学問分野・学問体系を確立し、そこから派生するソリューションを商品化して世に問う、研究・開発会社である。

< 当社の特徴 >

1. 産学共同研究

当社（金融工学研究・コンテンツ開発）と大学（基礎研究・応用研究）とで共同研究を行い、大学の基礎研究・応用研究を幅広く取り入れ、理論構築に応用する。当社は慶應義塾大学技術系初の学内企業であるが、現在、慶應義塾大学理工学部機械工学科棚橋隆彦研究室（棚橋教授は数値流体力学では日本の権威、当社取締役）、同電子工学科中島真人研究室、東京大学工学系研究科鈴木篤之研究室（システム量子工学専攻）、お茶の水女子大学理学部情報科学科藤代一成研究室（コンピュータビジョン）と共同研究を行っている。

2. 製造業の解析技術の取り込み

当社では製造業とも連携して研究・開発を推進している。日本の製造業が持つ世界最高水準の解析技術・システム構築技術により、CMD 理論に基づく各種理論を、実務に利用出来る高度なアプリケーションとして開発する。

当社では平成 14 年 4 月 1 日より旭硝子株式会社と包括業務提携を締結し、金融工学の共同研究、製品の共同開発を行っている。

3. 実務に直結した研究・開発

当社は、証券、信託銀行、投資顧問会社、都市銀行など、金融業界の様々な業態から人材を集めており、各業態の実務、業務内容に精通していると言える。

さらに当社は、機関投資家等への個別訪問、セミナー開催などを通じてニーズの把握を行っており、既に機関投資家、年金基金の中で、金融工学研究のユニークな会社として高い評価を得つつある。

< 申請中特許 >

CMD 理論に基づく「CMD 実行分析理論」において、現在 2 つの特許を申請中である。

2001 年 7 月 31 日申請（特願 2001-232416）

「金融市場における価格変動シミュレーションプログラム」

2001 年 12 月 10 日申請（特願 2001-375457）

「資金運用における執行収益率を計測する方法」

< 主な発表論文 >

「金融市場における日中変動シミュレーション」, 日本計算工学会論文集, 2001 年号, 論文番号 20010036, 1-8 .

「Black-Scholes 方程式の流体力学的解釈による拡張」, 日本計算工学会論文集, 2001 年号, 論文番号 20010048, 1-8 .

「金融市場における日中変動シミュレーション（第 2 報）」, 日本計算工学会論文集, 2001 年号, 論文番号 20010049, 1-8 .

「金融市場における売買スプレッドによる情報評価手法」, 日本計算工学会論文集, 2002 年号, 論文番号 20020002, 1-8 .